

設置条例及び規則

鳥取県教育研修センター設置条例

(昭和48年3月28日鳥取県条例第6号)

(設置)

第1条 本県における教育の充実とその振興を図るため、地方教育行政の組織及び運営に関する法律(昭和31年法律第162号)第30条の規定に基づき、鳥取県教育研修センター(以下「研修センター」という。)を鳥取市に設置する。

(職員)

第2条 研修センターに、事務職員、技術職員その他の所要の職員を置く。

附則

(施行期日)

1 この条例は、昭和48年4月1日から施行する。

(鳥取県教育研究所設置条例の廃止)

2 鳥取県教育研究所設置条例(昭和32年10月鳥取県条例第40号)は、廃止する。

鳥取県教育研修センターの管理運営に関する規則

(昭和48年3月30日鳥取県教育委員会規則第4号)

(目的)

第1条 この規則は、鳥取県教育研修センター(以下「研修センター」という。)の管理運営に関し必要な事項を定めることを目的とする。

(所掌事務)

第2条 研修センターにおいては、次に掲げる事務を行う。

- 一 教育関係職員の研修に関すること。
- 二 教育に関する研究調査に関すること。
- 三 教育相談に関すること。
- 四 特殊教育についての児童等の心身障害の検査に関すること。
- 五 情報教育に係る生徒の実習に関すること。
- 六 その他教育の充実及び振興を図るために必要な事業に関すること。

(内部組織及び分掌事務)

第3条 研修センターに、庶務課、教育相談課、情報教育課、初等教育課及び中等教育課を置く。

2 庶務課に庶務係及び会計係を置く。

3 各課の分掌事務は、次のとおりとする。

庶務課

- 一 研修センターの施設の管理に関すること。
- 二 庶務に関すること。
- 三 その他他課の所掌に属しないこと。

教育相談課

- 一 児童及び生徒の学習、行動等についての教育相談に関すること。
- 二 生徒指導についての研修及び研究調査に関すること。
- 三 特殊教育についての研修及び研究調査に関すること。
- 四 特殊教育についての児童及び生徒の心身障害の検査に関すること。
- 五 生徒指導及び特殊教育に関する資料の整備及び提供に関すること。
- 六 研修センターの事業についての他課との連絡協調に関すること。
- 七 その他研修センターの事業で他課の所掌に属しないこと。

情報教育課

- 一 情報教育についての研修及び研究調査に関すること。
- 二 情報教育に係る生徒の実習に関すること。
- 三 情報教育に関する資料の整備及び提供に関すること。
- 四 情報教育に関する資料の保管に関すること。

初等教育課

- 一 小学校の教育（特殊教育及び情報教育を除く。第三号を除き、以下同じ。）についての研修及び研究調査に関すること。
- 二 小学校の教育に関する資料の整備及び提供に関すること。
- 三 教育（情報教育を除く。）に関する資料の保管に関すること。

中等教育課

- 一 中学校の教育についての研修及び研究調査に関すること。
- 二 高等学校の教育についての研修及び研究調査に関すること。
- 三 中学校及び高等学校の教育に関する資料の整備及び提供に関すること。
- 4 係の分掌事務は、所長が定め、教育長に報告しなければならない。これを変更したときも、同様とする。

(職制)

第4条 研修センターに所長を、課及び係にそれぞれの長を置く。

- 2 前項の長の職務を補佐させ、及び長に事故がある場合はその職務を代行させるため必要があると認めるときは、研修センターに次長を、課に課長補佐を置くことができる。

(職員の種類)

第5条 研修センターの職員（臨時的任用職員及び非常勤職員を除く。以下同じ。）の種類は、事務職員及び技術職員とする。

(職員の職)

第6条 研修センターの職員の職は、別表のとおりとする。

(職員の分担事務)

第7条 職員の分担事務は、所長が定め、教育長に報告しなければならない。

(事業計画及び事業報告)

第8条 所長は、毎年3月末日までに翌年度の事業計画を作成し、教育長に提出しなければならない。

2 所長は毎年4月末日までに前年度の事業実績に関する報告書を作成し、教育長に提出しなければならない。

(委任)

第9条 この規則に定めるもののほか、研修センターの管理運営に関し必要な事項は、教育委員会の承認を得て、所長が別に定める。

附則

(施行期日)

1 この規則は、昭和48年4月1日から施行する。

(鳥取県教育研究所規程の廃止)

2 鳥取県教育研究所規程(昭和32年2月鳥取県教育委員会規則第2号)は、廃止する。

附則(平成元年鳥取県教育委員会規則第5号)

この規則は、平成元年4月1日から施行する。

別表(第6条関係)

- 一 事務職員又は技術職員をもって充てる職
所長、次長、課長、課長補佐、係長、主任、現業主幹
- 二 事務職員をもって充てる職
主事、研修主事、研修センター司書、現業主事
- 三 技術職員をもって充てる職
電気技師、運転士、ボイラー技士

施設・設備の概要

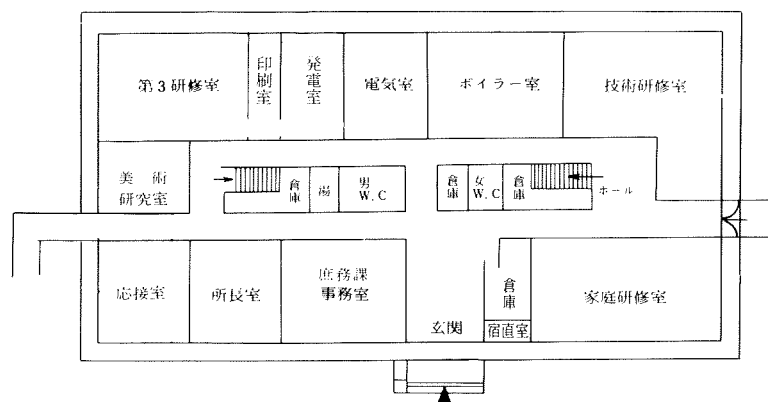
1 施設の概要

- (1) 所在地 鳥取市湖山町北5丁目201番地
 (2) 敷地面積 15,902.70㎡

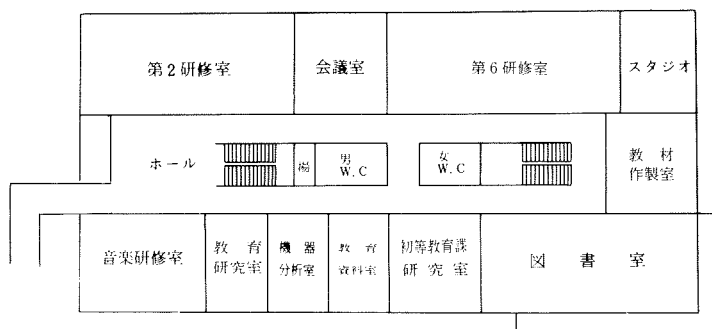
	第1棟(本館)	第2棟(情報教育課)	第3棟(心身障害児教育課)
構造	鉄筋コンクリート3階建	鉄筋コンクリート2階建	鉄筋コンクリート2階建
建物延面積	3,006.99㎡	1,094.84㎡	1,209.03㎡
敷地面積	990.00㎡	547.52㎡	609.74㎡
建築費	221,639,100円	110,000,000円	151,413,000円
着工	昭和47年6月	昭和49年10月	昭和56年9月
竣工	昭和48年3月	昭和50年4月	昭和57年3月
設備	冷暖房空調設備	冷暖房空調設備	冷暖房空調設備

第1棟(本館)平面図

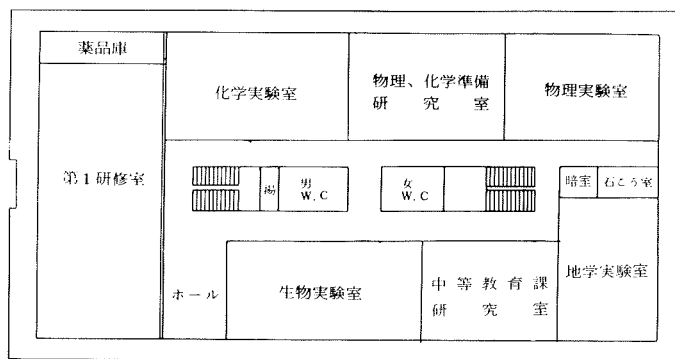
1階 990㎡



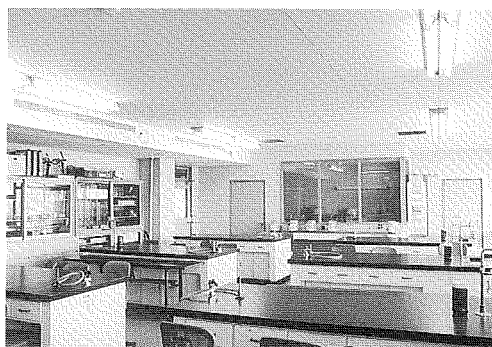
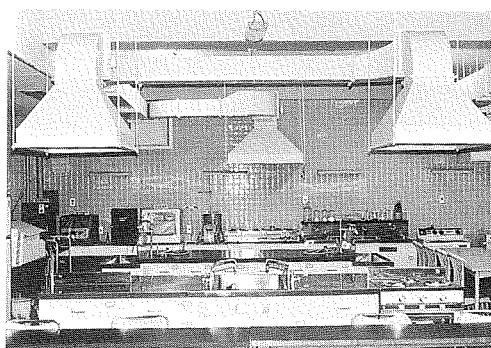
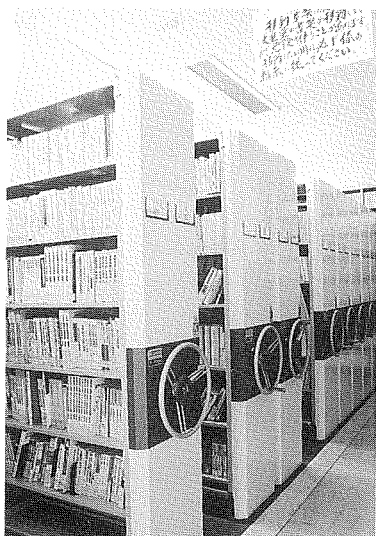
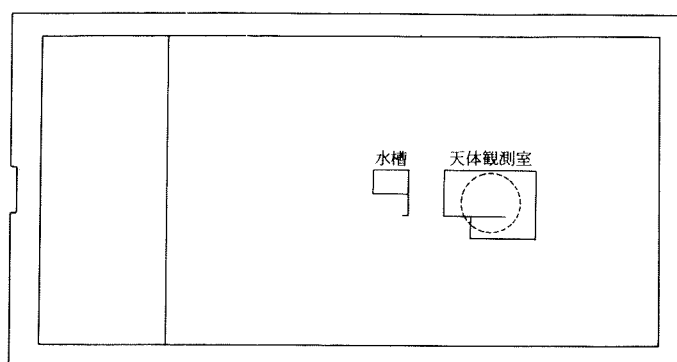
2階 990㎡



3階 990m²

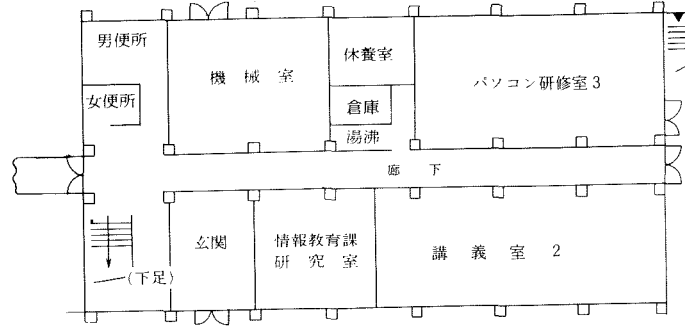


屋上 36.99m²

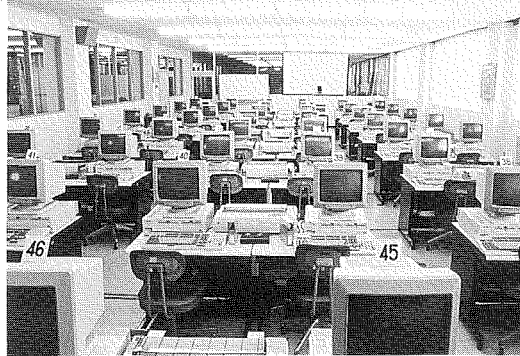
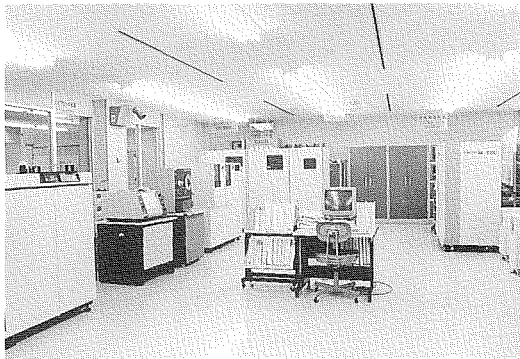
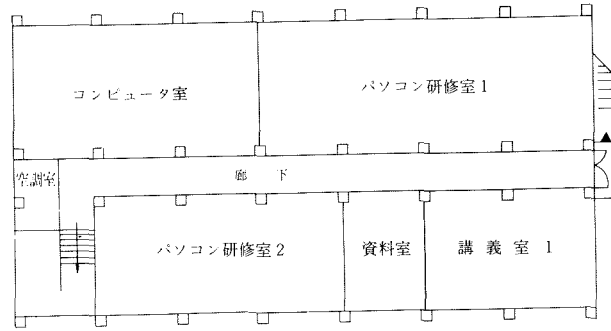


第2棟（情報教育棟）平面図

1階 547.52㎡

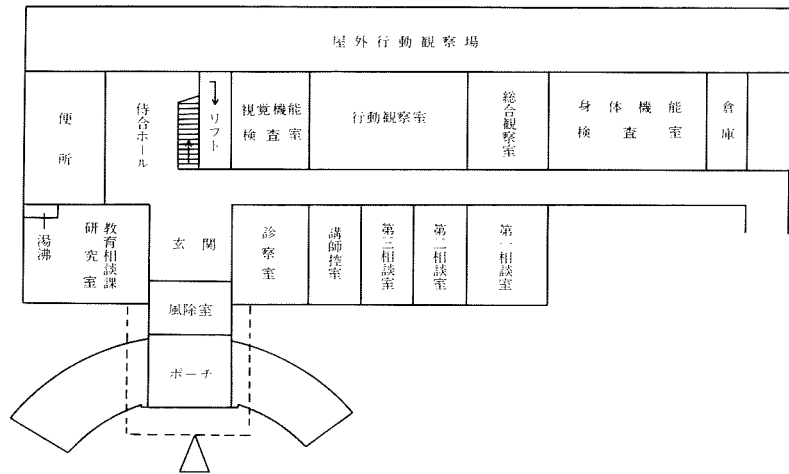


2階 547.32㎡

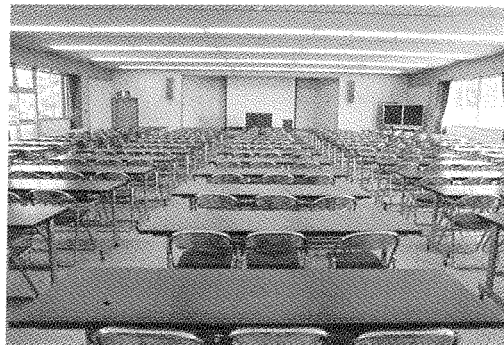
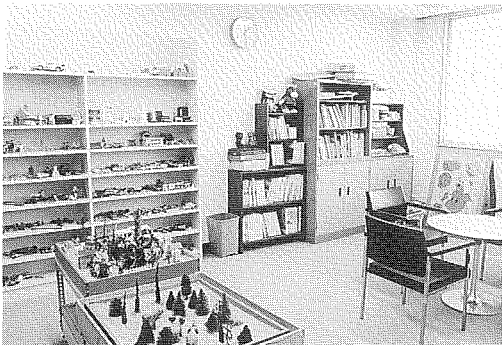
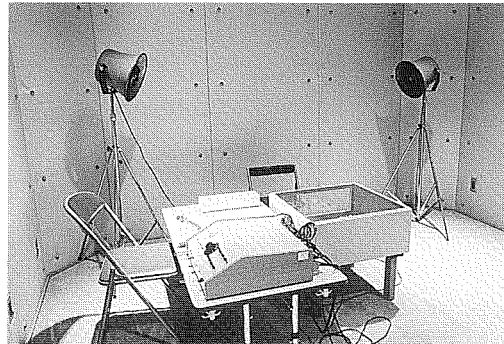
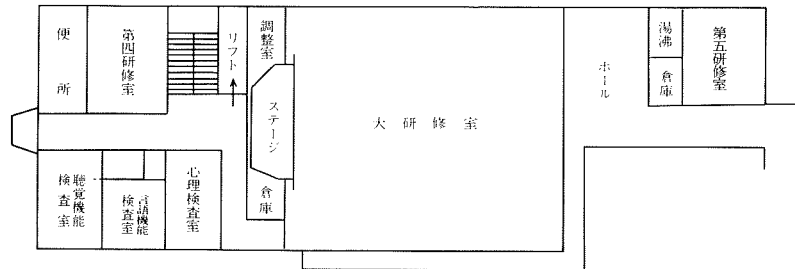


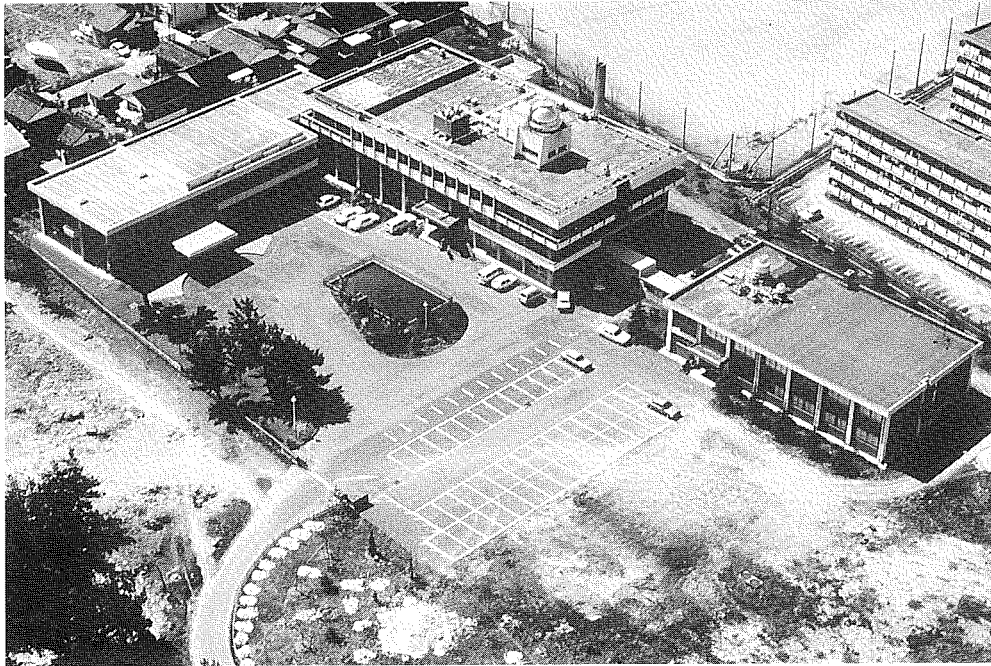
第3棟（心身障害児教育棟）平面図

1階 609.74㎡

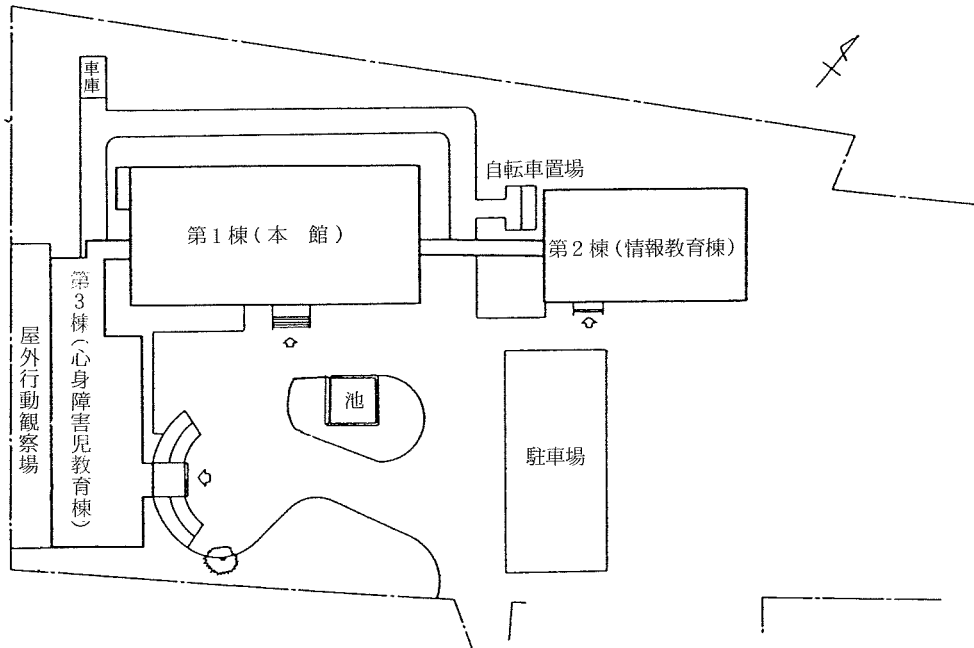


2階 599.29㎡





配置図



資 料 編

研修講座の実施一覧（昭和48年度～平成4年度）

ア 小学校講座

講座名	年度																			
	S.48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	H.1	2	3	4
国語教育	61	81	138	133	32								60	37	19	30	30	47	59	31
国語教育研修 （低学年）					25		40	19	33	54		15								
国語教育 （中学年）					29	33	36	26	13	26				42	44					
国語教育 （高学年）					27	58	17	19	20	10	25	20		21						
国語教育 （毛筆書写）	48	40	26			33			56	45	30									
社会科教育			32					7	8				40	20	20	20	30	30	30	30
社会科教育 （中学年）	31	42	31	28	27	39	22	12	25	21	15	15			20	20	20			
社会科教育 （高学年）	28	46	26	41	30	21	19				15									
社会科教育 （野外研修）									17	16	15	15								
算数教育			77	32	20	19								30		30	30	38	29	30
算数教育 （低学年）	33	35	29	44	28	31	32	32	30	29	25		25		14	20				
算数教育 （中学年）				37	32	30	15	35	32	26	25	25		20						
算数教育 （高学年）	33	31	31		29	34	29	28	14	14	15	15	25		33					
理科教育	16	22	36	18	20	22	15	29	18		15		18		20	21	24	10	18	20
理科教育基礎 （低学年）	24	18	15	20	22	17	19	21	22		18	18	12	12	12	12				
理科教育基礎 （中学年）					17	20	18	18	20	23	18	18	12							
理科教育基礎 （高学年）	24	21	12	18	17	19	18	18	18	13	15	15	12							
理科教育 基礎実験技術					24	22	18	17	17	19	18	18	18							
理科教育 野外観察	36	51	20	30	19	38	42	28	35	39	30	30	30	30	30	30				
理科教育研究							10	18	11	12	15	18		18	20	21				
理科教具自作		24		20	16		17	18	50	25	15	18	18	37	37	20				
理科教育基礎 （A領域）														6	11	12				
理科教育基礎 （B領域）														12	12	9				
理科教育基礎 （C領域）														9	8	9				
理科実験観察 （A・C区分）																	18		28	
理科実験観察 （B区分）																	18		22	
生活科教育																	50	50	61	69

講座名	年度																				
	S.48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	H.1	2	3	4	
音楽教育		25	22			20	14	37	38	26					17			20	15		
音楽教育基礎															18				18		
音楽教育 (日本の音楽)											15										
音楽教育(鑑賞)												15									
音楽教育実技 (合唱)												32	30	25	25	30	30	28	20	20	20
音楽教育実技 (器楽)												30	30	16	26	28	20				
音楽教育研究							15	12	12	9											
図画工作 教育実技	19	69	90	39	22	81	25	64	50	48	25	44	22	31	28	23	24	24	32	29	
図画工作教育											21	22	25	45	24	20		34	27		
保健教育	31	29	29		21	20															
家庭科教育実技	16	45	26	21	42	34	27	23	36	18	22	21	15	20	23	23	21	8	21	9	
道徳教育	32	56	27	33	29	29	33	29	25	23	25		20	20			30	30	30	11	
特別活動								39	33	19			20	20	39	20	30	61	29	30	
養護教諭研修	33	17	22	23			41														
保健主事研修	38	29	12																		
特殊教育	33				33	37	37	25	49												
心身障害児学級 教育																	19			35	
同和教育	29				32	34	27								22	20	28	28	29		
教育相談研修		70	65	33	20																
教育相談(1)											38	29	36	27	34	20					
教育相談(2)													13	15	14	20					
教育相談とカウンセ リングマインド																	11	12	11		
教育相談と問題 行動																			15		
問題行動の理解 と指導																	16	16			
学校カウンセリ ング																		3	3	3	
養護教諭カウ ンセリング																	35	22	23		
生徒指導	30							26	32												
児童理解 (生徒指導)														21							

講座名	年度																			
	S.48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	H.1	2	3	4
安全教育	43																			
視聴覚教育	62	35	51	41	14	18	30													
国際理解教育																				15
教育工学					17	12	9	46												
パソコン入門																42	170	84	84	
パソコン初級																		21		
パソコン中級																				
学校経営(1)	160	12			19	15	26			20						42	39	45	42	
学校経営(2)		14	23	34	16	23	29	39	9	14		20	20	20	61	48	52	49	54	
学校運営(教頭)	10	165	148	143	143	141						20								
学級経営		17	28	41	34	48	68	67	15	44		25	50	20	20	40	40	40	40	30
学年経営										21										
複式教育	20	22	11	12	17	8		41												
教職基礎							113	48	20					80	72					
教職専門							46	22	24											
学習指導法					32	37				50	45	20	20							
教育研究法				20	24	19														
校内研修										23										
教育評価法				30	29			30												
特別研修 (C講座)			10	22	18	41	24	11	30	21	20	45	10							
短期派遣研修 (C講座)															20	20	8	5	3	3

イ 中学校講座

講座名	年度				S.48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	H.1	2	3	4
	S.48	49	50	51																				
国語教育	41	24	26	28	27	23	38	32	24	21	20	20	20	20	19	19	15	19	24	10				
国語教育 (毛筆書写)	13	11	14				9		5	10	15													
社会科教育																20						18		
社会科教育 (地理)			26			21	9	5				20	18		20				24					17
〃 (歴史)	20			25			22										12			18				
〃 (公民)		29			30			16						20				16					16	
〃 (野外研修)	17	17	22	16																				
数学教育	17	25	26	34	30	28	24		27	23	19	21	19				15	15	7	8	19	7		
数学教育研究							7	15																
数学教育(1)																	14							
〃 (2)																	5							
理科教育			9	12		26	23									13	15	15	12				21	21
理科教育 (第1分野)	12	14	15	20	20	20		13	12	16	14	16												
〃 (第2分野)	12	15	13	20	20	21		13	11	16	14	16												
理科教育実験技術	23	23																						
理科教育野外観察	14	24	20	13	35	12	19	20	17	14	12	12	12	12	12	15	13							
理科器具修理技術	12																							
理科実験観察																12	14	13	13	22	24			
理科教材製作																		19						
音楽教育																	14	7	12			9	8	5
音楽教育実技 (器楽)		13									16	14												
〃 (編曲)				16	15	16																		
〃 (合唱)					10		34		16		16													
音楽教育 (鑑賞)				14			15	15							13									
〃 (日本の音楽)	21	15	13									10	9											
美術教育																	8	12	14	7			14	
美術教育実技 (絵画)	3		15	8											15									

講座名	年度																				
	S.48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	H.1	2	3	4	
美術教育実技 (彫塑)	10										12		17								
〃 (工芸)	11	20							11												
〃 (版画)		11								26											
〃 (木工)					17	15															
〃 (構成)				11																	
〃 (エッチング)							14														
美術教育研究								9													
保健教育	19	16	18	19	19																
技術・家庭科教育実技(被服)	11	9	9	9	9			13	11	14	8	8	8	8	8	10	12			26	
〃 (食物)		12	12	7	13	7			12		10	8	食物 保育	8		15					
〃 (住居)		17					20	10	14		10			8							18
〃 (保育)								9													
〃 (家庭生活)																			21		
技術・家庭科教育				36	39	10	27	21	15												
技術・家庭科教育実技(電気)	18	22	16	9	9	12	9	9	8	9	8		6	6	5	12			5	7	
〃 (機械)	7			9	8	9							5	6	7						
〃 (金工)							11	6	5	6	6	6									
〃 (木材加工)																6	10				
情報基礎 (技術・家庭)																	25	30	17	20	
英語教育	39	25	26	26	29	22	19	20	16	21	14	16	16	17	15	11	18	20	19	13	
英語教育 (LL研修)		12	17	17	8	15			16					24							
〃 (技能演習)							6	9	5		12	17			16						
道徳教育	21	21	15	23	18	20	17	21	16	11	15		15	15			20	20	20	13	
進路指導				9	12	22	14	13	14	10	12	12	11	12							
特別活動								27	20	25			15	15		27	11	27	18		
養護教諭研修	21		18			21															
保健主事研修	20	15	10																		
特殊教育					22	13	11	11	21	別掲											

講座名	年度																			
	S.48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	H.1	2	3	4
同和教育	21	22		30	18	26									20	19	18	13	19	
教育相談(1)	19	42	20	60	16	15	75	18	24	27	23	10	17	19	25	12				
〃 (2)				7	10	7	11	12	12	13	11	13	9	9	8	13				
〃 (3)							4	8	5	6	7	7	6	5	7	9				
生徒指導	19						19	17	5	5	5	5								
生徒指導 (性教育)						21	19	26	23	12	22	22								
総合生徒指導													13	14	14	15				
生徒指導の実際																	10	16	17	13
安全教育	18																			
視聴覚教育	28	18	20	11	5	15	21													
教育工学基礎					15	9	10													
教育工学																		12		
授業設計																				14
国際理解教育																				16
教育心理			13																	
教育相談とカウン セリング・マインド																	8	7	15	13
問題行動の理解 と指導																	18			
教育相談と問題 行動																		14	17	
教育相談と精神 衛生																	11	13		
教育相談と精神 保健																			7	7
学校カウンセリ ング																		1	10	6
養護教諭カウ セリング																	18	14	10	
パソコン入門															43	40	35	41	43	8
パソコン中級																	19	15	15	
パソコン初級																		24		
表計算ソフトの 活用																				13
BASIC基礎																				7
LOGO入門																				8

講座名 \ 年度	S.48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	H.1	2	3	4
パソコンによる計測・制御入門																				9
学校経営(1)	53	5	13	20	8	8	8			14						17	14	17	17	
〃 (2)		6			6	11	14	15	6	10	15	15	15	15	26	24	31	28	24	
学校運営(教頭)		58	55	59	50	55	52													
〃 (教務主任)												20								
学級経営						21	26	23	19	11	15	15	20	23	28	23	25	20	21	21
学年経営										21	15	15			22	20	19	20	20	
教職専門							20	17	17		25	19	20							
教職専門(女子)									60	17										
学習指導法					18	25														
教育研究法				19	24	13														
校内研修										17	15									
教職基礎														30	29					
特別研修 (C講座)			2	6	7	5	7	7	5	7		10								
短期派遣研修 (C講座)																	1			1

ウ 高等学校講座

講座名	年度																			
	S.48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	H.1	2	3	4
国語教育	22	21	24	30	22	23	28	27	30	25	15	14	14	15	20	22	19	19	18	18
社会科教育 (地理)	31				21						15				18		19			14
〃 (世界史)				21			22							20				17		
〃 (日本史)		21										14				22			20	
〃 (政経)			20			51														
〃 (現代社会)								32	26	22			14							
数学教育	22	22	23	23	30	26	25	31	29	25	18	16	16		19	14	20	16	17	
数学教育(1)														19						
〃 (2)														5						
卓上電算機研修	76		14	8																
理科教育																				10
理科教育(化学)		30			19	28		19						化学 地学	16				12	
〃 (物理)	9			39			19			20				15	14	19		14		
〃 (生物)	11		16			17			21									14		
〃 (地学)																18			14	
理科教育野外観察	18																			
理科器具修理技術	15																			
分析機器研究									6	6	6	6			5	6				
音楽教育実技		3	3	4	5	5		7		6										
美術教育実技	7		10			3	5		4		3									
保健教育	17	18	16	29																
家庭科教育実技 (被服)	9		12		11		12		11		8		8			16		7		
〃 (食物)		13		17		15		11		11		8			11		12			
〃 (住居・保育)														10						
〃 (家庭電気・電子)																			7	
英語教育	21	23	21	25	18	24	29	15	24	28	15	15	14	14	19	20	15	18	22	
英語教育 (LL研修)		10	5	3	7	8														
〃 (技能演習)								10	10		13	12								
農業教育	17	40	18	13	12	14	15	14	15	12	10	10								

講座名	年度																				
	S.48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	H.1	2	3	4	
工業教育	45	37	24	21	18	15	15	12	9	9											
商業教育	9	33		24		21	16		19												
数値制御工作機械				10	9	8	5	5	4	6											
電子計算機 (工業入門)				12	14	14	13	9													
"/ (工業専門)			47	47	9	61	9	7	8												
"/ (商業入門)				10	10	10	7	8													
"/ (商業専門)			28	23	8	7	6		8	8											
"/ (商業研究)						5	5	5	5												
"/ (工業研究)									4	4											
"/ (家庭)													11	14							
"/ (農業)													10	9							
情報処理教育									8	16	11										
マイコン基礎								21	14	15											
新システム実技 (工業・水産)										27	14										
"/ (機械)											16	5									
"/ (商業)											16	11									
"/ (農業)												10									
"/ (家庭)											11										
フォートラン中級 (工業・水産)													12	11	12						
コボル中級 (商業)													11	12	13						
コンピュータ基礎 (家庭)														11	11	11					
"/ (農業)														10	8	8	8				
パソコン入門															15	18	23	15	13		
コボル初級																8	6	7			
図形処理 (CAD)																11	10				
メカトロニクス 技術																		10	10	10	
家庭学科におけ るCAD利用																		14	10		
商業学科における データベース入門																			10	8	
農業情報処理の 基礎																				6	
パソコン中級																				10	
家庭情報処理の 基礎																					10

講座名	年度																				
	S.48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	H.1	2	3	4	
表計算ソフトの活用																					5
BASIC基礎																					4
LOGO入門																					1
パソコンによる計測・制御入門																					3
進路指導				8	16	8	10	13	10	8	6	7	6	6							
養護教諭研修		26			23																
保健主事研修	20																				
特殊教育					2					別掲											
同和教育	20	22			10	16	17														
教育相談(1)	17	17	21	17	24	11	16	17	18	18	11	8	8	12	15	11					
〃 (2)				9	11	8	6	12	9	13	9	7	8	7	4	10					
〃 (3)							5	5	4	4	5	4	4	5	2	8					
生徒指導	19						15	12	5	5	5	5									
生徒指導(性教育)						11	10	11	10	18	17	11									
総合生徒指導													11	11	7	8					
生徒指導の実際																	12	16	19	10	
安全教育	36																				
視聴覚教育	10	13	13	13																	
教育心理			14																		
教育相談とカウンセリング・マインド																	19	11	12	9	
問題行動の理解と指導																	17				
教育相談と精神衛生																	15	12			
教育相談と精神保健																			11	15	
養護教諭カウンセリング																	11	13	6		
教育相談と問題行動																		12	19		
学校カウンセリング																		7	9	7	
国際理解教育																					13
学校経営(管理職)	61	47	91	56	63	70	65	58	55	67											
ホームルーム経営										24						20	18				
特別活動																		15	10		
学年経営										14	8	10									

エ 心身障害児教育講座

講座名	年度																				
	S.48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	H.1	2	3	4	
特殊教育										37	8										
特殊教育実技												15									
障害児理解														29	26	26					
児童の心理・理解															24						
心身障害児教育(1)																	22	22	14	14	
” (2)																	22	22	15		
訪問教育										21	17	16				15	15				
特殊学級教育												34	23	23	23	31					
心身障害児学級教育																	34	39	45	41	
特殊教育総合											18	18	19	18	18	16					
精神薄弱教育										37	58										
精神薄弱教育(1)												50	42	35	27	32					
” (2)												22	20	20	28	29					
病(虚)弱教育										14	13	13			21	28					
言語障害教育										26					21	17					
聴覚・言語障害教育												18	23	29	39						
視覚障害教育										27	9		34								
情緒障害教育										27	40	42	33	36	36	25					
養護・訓練										21	26	18									
特殊学級指導										22	28										
肢体不自由教育										9	19	14		48							
運動発達遅滞													34	30							
重度障害教育研究										8	9										
重度・重複障害教育																	21	21	17	19	
短期派遣研修(C講座)																	1	1			1

オ 幼稚園講座

講座名	年度																				
	S.48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	H.1	2	3	4	
幼児教育	42	29																			
” (絵画)	35	20	33	40	59	28	19	34	26	34											
” (音楽)	21	23																			

カ 教職教養講座（D講座）

年度	期日	演 題	講 師	会 場	受講者
48	9・3	幼児教育（保健）	天理大学 教 授 橘 重美	倉吉市 中部総合事務所	168
	10・11	生徒指導における教育相談の役割	東京教育大学 助教授 真仁田 昭	米子市 米子保健所	62
49	4・30	教育危機と学校組織の革新	東京教育大学 教 授 吉本 二郎	鳥取市 福祉文化会館	73
	8・1	道 徳 教 育	京都教育大学 教 授 村上 敏治	鳥取市 福祉文化会館	127
	9・26	学習評価の効果的な方法	応用教育研究所 所 長 橋本 重治	米子市 西部総合事務所	127
	10・18	僻地における学習指導の諸問題	島根大学教育学部 学部長 近藤 正樹	所 内	118
	11・19	特 殊 教 育	神戸大学 教 授 伊藤 隆二	所 内	128
	2・28	教育相談と人格変容	東京教育大学 助教授 原野広太郎	所 内	94
50	7・9	最近における教育行政の諸問題	文部省初等中等教育局 財務課長 別府 哲	倉吉市 福祉会館	168
		生死をかけたこの一つ －鳥取県の栄光を信じて－	教育評論家（彦根市） 中村竹次郎		
	8・8	学級担任による教育相談	埼玉県立教育センター 主任指導主事 金子 保	所 内	87
	10・2	学校教育の改革とその方向	大阪教育大学 教 授 上寺 久雄	米子市 総合研修センター	58
	11・26	学習評価の効果的な方法	応用教育研究所 所 長 橋本 重治	鳥取市 明治生ビル	150
	11・28	特 殊 教 育	東京学芸大学 助教授 大井 清吉	米子市 米子信用金庫ビル	92
51	5・13	子どもの心とからだ（幼児教育）	大阪教育大学 教 授 高木俊一郎	所 内	170
	8・24	ベルギーの教育と日本の教育	松の聖母学園 園長 S.B.デインゲネン	鳥取市 県庁大会議室	130
	11・2	教 育 と 医 学 －子どもの心の発達と指導－	九州大学教育学部 教 授 成瀬 悟策	所 内	92
	11・4	学校教育の課題 －新教育課程の理念－	広島大学 教 授 新堀 通也	米子市 就將小学校	211
	12・1	授業評価の新しい方向とその技術	大阪大学 教 授 水越 敏行	倉吉市 中部総合事務所	175
52	7・7	学級担任による教育相談	大阪外国語大学 教 授 氏原 寛	倉吉市 中部総合事務所	62
	7・30	現代教育の課題	筑波大学 教 授 鈴木 博	所 内	81

年度	期日	演 題	講 師	会 場	受講者
52	7・30	教育と日本の将来	筑波大学 教 授 村松 剛	倉吉市 県福祉文化会館	90
	7・30	現代と教育	筑波大学 副学長 福田 信之	米子市 総合研修センター	86
	8・22	教えるということ	東京都石川台中学校 教 諭 大村 はま	鳥取市 市民会館	388
	10・25	新教育課程推進のための哲学	上智大学 教 授 近藤 正樹	倉吉市 西中学校	250
	11・2	現代教育の課題	朝日新聞社大阪本社 論説委員 田村 耕介	米子市 湊山中学校	128
	11・10	新教育課程実践の方策	お茶の水女子大学 教 授 河野 重男	鳥取市 北中学校	325
	12・5	教育評価の方法について	大阪大学 教 授 水越 敏行	米子市 米子信用金庫ビル	300
53	7・7	現代教育の方向と学校教育の課題 －学校の教育に何を望むか－	甲南女子大学 学 長 鯨坂 二夫	倉吉市 中部総合事務所	112
	8・24	これからの社会	朝日新聞社大阪本社 論説委員 田村 耕介	鳥取市 市民会館	550
	11・24	新しい教育評価のあり方	文教大学 教 授 石田 恒好	米子市 米子信用金庫ビル	195
54	11・5	企業の経営と人づくり	新日本海新聞社 社 長 吉岡 利固	所 内	166
	11・22	国際化時代の教育	文部省大臣官房 企画官 長谷川善一	倉吉市 市農協会館	280
55	8・29	鳥取県の教育	元鳥取県教育長 鶴田 憲次	所 内	110
	11・4	小・中学校の現代的課題 －新教育課程の追求するもの－	大正大学文学部 学部長 吉本 二郎	所 内	220
56	11・7	禅 の 窓	鳥取市興禅寺 住 職 栄 無得	所 内	217
62	1・13	未来を拓く教師に	元東京都石川台中学校 教 諭 大村 はま	鳥取県 社会教育センター	560
63	1・11	自ら学ぶ子を育てる教育	お茶の水女子大学 教 授 森 隆夫	米子市公会堂	400
平成 元	8・22 ～23	大山の自然と歴史（野外観察等）	境港市民図書館 館長 畠中 弘他6名	大山町大山寺周辺	23
	1・13	やる気を育てる	京都府立伏見工業高等 学校 教 諭 山口 良治	県民ふれあい会館	194
2	5・24 ～25	大山の自然と歴史（野外観察等）	境港市民図書館 館長 畠中 弘他7名	大山町大山寺周辺	21
	11・21	人と動物とのふれあい	「インセクタリアム」 編集長 矢鳥 稔 (前多摩動物園園長)	鳥取県 教育研修センター	152



二年目を迎える教育研修センター

所長 中尾 太郎

教育研修センターが、事業を始めてから、早くも1年が経過しました。初年度は、十分な態勢が整備されないまま研修講座を開設しましたが、幸いに各方面のご理解とご協力によって、まずまずの成果をあげることができ、厚くお礼を申し上げます。

研修センターは、幼稚園から高校までを対象とし、教科をはじめ各領域にわたる研究、研修事業、教育相談などいわゆる「研究」、「研修」、「奉仕」を柱とし、その調和をはかり、事業を推進し、県教育の振興に寄与したいと念願しています。

情報化社会、高度知識産業社会へと急速に進展しつつある現代のなかで、学校教育に要請される課題は多く、教材の精選、学習過程の研究、教育機器の利用等の教科についての研究はもとより、多様な価値観とさまざまな情報のなかで子どもの社会認識とその指導、人間形成の研究等、センターの目的達成は容易ではありません。

研修には、基礎的、専門的なものや一般教養も計画していますが、研修センターは、県下の先生

方とともに、教育実践の中から提起されたいろいろな問題を、先生方の協力を得ながら研究を進め、その成果を交流して、実践の場で確かめ深めていくという、研修と研究を一体的に進め、理論と実践を調和し止揚するよう運営したいものと考えています。

49年度の研修センターの職員の配置に変わりありませんが、長期、短期の研修員を受け入れ、県内外の大学等から講師を招き、設備を整備し、よりいっそう充実した講座を開設し、先生方の要求にこたえたいと思います。また、48年度の運営の反省、現場の先生方の要望を取り入れ、平素の授業管理、学校行事にできるだけ支障をきたさないように計画したつもりです。自由に選択して参加できる特設講座も用意しております。

所員一同、学校からの声をよく聞き、それに応え先生方にとって、研修センターが、最も身近な研究の場となり、交流の場となって発展するよう創造的、意欲的に推進したいものと考えております。

昭和49年度
研修講座実施にあたって

I. 基本方針

1. 教育の基本理念の研究をするとともに、現代化の考え方にたった教育内容や指導方法のあり方について研修を行なう。
2. 学校・学級経営および各教科、領域等の内容・方法にかかわる専門的な研修を行なう。
3. 実験、実習、実技、野外観察等の多様な方法により効果的な研修を行なう。

II. 研修講座の種類

1. 一般講座

年次計画に基づいて実施する講座です。

○ 年次計画に基づいて実施するもので、基本となる講座です。

○ 基本となる講座の中で、希望により若干名の参加ができます。

○ 基本となる講座の中で、内容の一部を公開する講座です。

2. 特設講座

本年度特設する講座で、定員の枠内で、希望による参加を原則とする講座です。

3. 教職教養講座

講演会形式で実施する講座で、希望による参加を原則とする講座です。

III. 講座の運営について

1. 研修講座の内容を精選し、日程を考慮して、効果的な運営をはかる。

2. 一講座あたりの受講人数を少なくして、研修の効果があがるように配慮した。

研修講座計画一覧表 (小学校)

講座名	対象	実施月日	期間	人数	一部公開	備考	
学校教育講座	校長(経験年数2年目)	5/10-11	2	13		学校教育の努力点特参	
学校運営講座	教頭(経験年数2年目)	5/10-11	2	15		全上	
国語教育講座	1	(東・中部)	5/10-11	2	30		
	2	(西部)	5/10-11	2	20		
	3	国語科主任クラス	5/10-11	2	25		
毛筆書写実技講座	一般教員(40才以下)	5/10-11	3	30	*	習字用具持参 小中台同	
社会科教育講座	下学年		5/10-11	2	30	*	
	上学年		5/10-11	2	30	*	
算数教育講座	下学年	下学年担当教員(東・中部)	5/10-11	2	35		
	上学年	上学年担当教員(中・西部)	5/10-11	2	25	*	
音楽教育実技講座	一般実技	音楽科担当教員	5/10-11	2	20		
	電子オルガン	音楽科担当経験の少ない教員	5/10-11	2	16		初級程度
図画工作教育実技講座	(1)立体構成、色彩		5/10-11	3	20		5/10-11色彩
	(2)色彩、立体構成		5/10-11	3	20		5/10-11色彩
家庭科教育実技講座	すまい	家庭科担当教員	5/10-11	2	10	*	
	被服	全上	5/10-11	2	10	*	
視聴覚教育講座			5/10-11	2	20	*	
複式教育講座	複式学級(過年度参加者担当教員は除く)		5/10-11	1	20	*	実務事例特参
理科教育講座	理科主任または副主任		5/10-11	3	12	*	
理科教育基礎講座	下学年		5/10-11	2	12	*	
	上学年		5/10-11	2	12	*	
理科教育野外観察研修講座			5/10-11	2	36	*	
理科教育自作教具作成講座			5/10-11	2	18	*	
道徳教育講座	道徳主任または副主任		5/10-11	2	30	*	
新任保健主事研修講座			5/10-11	2	30	*	
養護教諭研修講座	(過年度受講者を除く)		5/10-11	2	25	*	
保健教育講座	5, 6年体育担当教員		5/10-11	3	20	*	
教育相談研修講座	1, 2年担任女子教員		5/10-11	2	20	*	
学級経営講座	経験年数15年以上学級担任		5/10-11	1	40		
音楽教育実技講座	たて笛	1	音楽科担当経験の少ない教員	5/10-11(西部)	1	20	中部教員は東・西どちらかの会場に参加
	箏	2	全上	5/10-11(東部)	1	20	
美術教育実技講座	木版多色刷り	小・中・国工、美術担当教員	5/10-11	3	小中15		
教職教養講座	小・中・高校教員	未定	未定			5講座程度実施の予定	

(注) 1. 実施期日は講師等の都合により変更することがあります。
 2. 人数増の欄に*印をつけたものは、若干名の希望参加を認める講座です。

研修講座計画一覧表（中学校）

講座名	対象	実施月日	期間	人数	人数増	一部公開	備考
学校教育講座	校長（経験年数2年目）	%~%	2	5			学校教育の努力点持参
学校運営講座	教頭（経験年数2年目）	%~%	2	6			全上
国語教育講座	国語科担当教員	%~%	3	25	※	※	
毛筆書写実技講座	国語科担当教員（40才以下）	%~%	3	10			習字用具持参小中合同
社会科教育講座	社会科担当教員	%~%	3	25	※	※	公民分野
数学教育講座	数学科担当教員	%~%	3	25	※	※	
英語教育講座	英語科担当教員	%~%	3	25			カセットテープ持参
音楽教育実技講座（日本の音楽）	音楽科担当教員	%~%	2	15			高校と合同
美術教育実技講座	木工	1	技術科担当教員	%~%	3	10	
	芸	2	全上	%~%	3	10	
技術・家庭科教育（男子向き）実技講座	電気	1	技術科担当教員	%~%	3	6	
		2	全上	%~%	3	6	
		3	全上	%~%	3	6	
技術・家庭科教育（女子向き）実技講座	食物	家庭科担当教員	%~%	2	8	※	
	被服	全上	%~%	2	8		
視聴覚教育講座	視聴覚教育担当教員	%~%	2	20	※		
理科教育講座	第1分野	1	第1分野担当理科教員	%~%	3	10	※
	第2分野	2	第2分野担当理科教員	%~%	3	10	※
	第1分野	3	第1分野担当理科教員	%~%	2	10	※
	第2分野	4	第2分野担当理科教員	%~%	2	10	※
理科教育野外観察研修講座	理科担当教員	%~%	2	24			野外研修資料と用具持参
道徳教育講座	道徳主任または副主任	%~%	2	15	※		
新任保健主事研修講座	新任保健主事	%~%	2	15			
保健教育講座	体育科担当教員	%~%	2	15			
教育相談研修講座	学級担任	%~%	2	15	※		
社会科教育野外研修講座	社会科担当教員	%~%	2	20			野外研修資料と用具持参
L.L.研修講座	中・高校英語科担当教員	%~%	2	30			カセットテープ持参
音楽教育実技講座（電子オルガン）	音楽科担当教員	%	1	16			
美術教育実技講座（木版多色刷）	小・中図工、美術担当教員	%~%	3	15			
教職教養講座	小・中・高校教員	未定					5講座程度実施の予定

- (注) 1. 実施期日は講師等の都合により変更することがあります。
 2. 人数増の欄に※印をつけたものは、若干名の希望参加を認める講座です。
 3. 一部公開の欄に※印をつけたものは、内容の一部を公開する講座です。

研修講座計画一覧表（高等学校）

講座名	対象	実施月日	期間	人数	人数増	一部公開	備考
国語教育講座	国語科担当教員	%~%	3	20		※	
社会科教育講座	社会科(日本史)担当教員	%~%	3	20		※	県内歴史資料持参
数学教育講座	数学科担当教員	%~%	3	20		※	
英語教育講座	英語科担当教員	%~%	3	20		※	カセットテープ・刀本各自持参
音楽教育実技講座（日本の音楽）	音楽科担当教員	%~%	2	5			中・高合同
家庭科教育講座	家庭科(食物)担当教員	%~%	3	9			
視聴覚教育講座	社会科担当教員	%~%	2	15			
理科教育講座	化学担当教員	%~%	2	12			
保健教育講座	体育科担当教員	%~%	2	29			
養護教諭研修講座	養護教諭	%~%	2	29			運動着持参
教育相談研修講座	学級担任	%~%	2	20			
同和教育講座	管理職、同和教育主任を除いた教員	%~%	2	20		※	
農業教育講座	農業科担当教員	未定	2	20			
工業教育講座	工業科担当教員	未定	6	20			
商業教育講座	商業科担当教員	未定	2	20			
L.L.研修講座	中学校・高校英語科担当教員	%~%	2	30			中・高合同カセットテープ1~2本各自持参
教職教養講座	小・中・高校教員	未定					5講座程度実施の予定

- (注) 1. 実施期日は講師等の都合により変更することがあります。
 2. 一部公開の欄に※印をつけたものは、内容の一部を公開する講座です。

研修講座計画一覧表（幼稚園・保育所）

講座名	対象	実施月日	期間	人数	人数増	一部公開	備考
絵画製作実技講座	経験5年未満の教員・保母	%~%	2	20			
音楽実技講座	経験5年未満の教員・保母	%~%	2	20			
幼児教育講座	経験10年未満の教員・保母	%~%	2	30			

- (注) 実施期日は講師等の都合により変更することがあります。

研究調査事業の概要

1. 昭和48年度の研究調査事業

下記の三テーマについて研究調査を行なった。

● 県立高等学校入学者選抜学力検査成績の分析研究 昭和48年度県立高等学校学力検査の結果について、教科別、問題別に、しかも課程別、学科男女別に分析し、その考察を加えたものである。この研究は毎年実施しているもので、結果の概要をまとめた報告書は、県下各学校に配布し、学習指導上の資料に供している。

● 小学校基礎教科学力診断調査と分析研究 小学校国語、算数について、小学校教育研究会の多大な協力のもとに、学力診断調査を行ない、その結果を問題別に詳細に分析し考察を加えたもので、学習指導上有効な資料となるものである。

● 高校生の能力、適性に応ずる進路指導の研究 高校生の能力、適性に応じた進路指導の適切な方法を導き出すため、AOI適性検査等諸検査や意識調査を行ない、その結果を分析したものである。

2. 昭和49年度の主題

- 教育内容、学習指導法改善に関する研究調査
- 県立高等学校入学者選抜学力検査成績の分析研究
- 小学校児童の基礎学力診断調査とその分析研究調査
- 高等学校生徒の進路に関する研究調査
- 教育相談
幼児、児童、生徒および父兄について、心配ごと、悩みごと等の相談に応じ、これに対して指導・助言を行なう。

あ と が き

昭和49年度の研修講座の計画概要を中心に所報第1号を編集しました。

これから学校、教育関係機関と教育研修センターをつなぐ願いをこめて所報を発刊いたします。皆様のご支援とご協力をお願いします。

図書室だより



教育研修センターは、教職員の研修を実施するほかに、教育に関するもろもろの研究調査を推進する中核的な機能を与えられております。その目的を果たすために、研究用の図書、資料の充実には多大の力をそそいでおります。すなわち、当センターが、教育研究用図書資料のセンターとして、名実ともにその機能を発揮することができるように、その整備、充実につとめているところであります。

図書室は、センターの建物の二階、ベランダを巡らした明るい一角に位置し、右半分を書庫、左半分を閲覧室として使用しています。その管理には専任司書が日々これに当たっております。蔵書数は、図書約5千冊、研究報告等の資料約1万1千冊を擁し、その大部分は、元の教育研究所の蔵書を引き継いだもので、本年度新しく受け入れたものは、図書約450冊、資料約500冊であります。

図書の整備に当たっては、当面、基本となる辞典、専門書を充実整備することを重点に進めております。本年度講入した主なものを列挙すれば、O.E.

D.(13巻) 日本文化史(8巻) 日本国語大辞典
大漢和辞典(35巻) 世界大百科辞典(13巻)

文部省年報 世界各国史などであります。また、教科別にも、それぞれ専門分野の基本的な図書を揃えつつあります。

図書室は約900名の方が利用され、貸出冊数は300冊にのぼります。

今後、図書、資料の整備については、行政および、教育関係者の御助言、御協力を得て、いっそうの充実をはかり、真に研究図書センターの役割を果たすようにつとめたいと考えております。

鳥取県教育研修センター所報

昭和49年3月31日発行

編集兼発行者 鳥取県教育研修センター
所在地 鳥取県鳥取市湖山町下浜1,194ノ132
電話 (0857) - 29-2321
〒 680

所報



鳥取県教育研修センター

題字……所長 石谷義明書

No. 17

1982.9



“日就月将”教育研修センターの玄関正面に掲げられた言葉である。人それぞれに読み方があるので、所員の方に依頼して、正しい読解を調べていただいた。

“日になり 月にすすむ”と読み、日日月月に進歩する、という意味だそうである。所長室に掲げられた“日々是新”と異口同音というべきであろうか。この二つには、ともに溪山とサインされている。溪山とは藏光溪山先生で、私にとっては恩師である。今はなき溪山先生が、センターの道しるべとして、今なお私達を見守ってくださる、まことに有難いことであり、かつまた、心強い限りでもある。

これを機会に、センターに贈られた揮毫をそれぞれ調べていただいた。全部で20点あった。短いものでは、“無”“道”といったものから、長いものでは、“示子適”と題する子聿の漢詩がある。“温故知新”が二点ある。一つは平林知事のもの、他の一つは故石破元知事のものである。偶然か？必然か？いずれにせよ、①現実を直視し、②先達を仰視し、③歴史を重視し、それらを通して未来を展望することは、いつの時代でも、どの世界でも大切なことである。少しむつかしいものに“魚の哀しみを知るものは海”とある。どういう意図が含まれているのだろうか？……魚を生徒（児童）に、海を教師におきかえて、水魚の交わりを師弟に

期待されたもの……と解してはいかがなものだろうか。これらの20点は、いずれも教育に夢を託した人生哲学で、よみかえすほどに含蓄を深める。

去る7月5日、センター開設十年記念行事の一つとして、朝日新聞社の論説主幹 岸田純之助氏を招き講演会をもった。その時、帰京を急がれる岸田主幹に、一目あいたい！といらっしやっただ姉さんも、タクシーに同乗していただき空港に送った。幾年へだてた姉

弟の今日のこの交歓、私は、きいてはならぬと思いつ、も、二人の密話を助手席から盗みぎきする結果となった。

姉 お互いに年をとってはダメだね！

弟 そうだよ！

姉 それには どうしたらよいかしら？

弟 一日に30分でも読書することだよ！

姉 そうネ！ 30分と言うけどネ!?

弟 毎日読まねばダメだよ！

姉 毎日ネ！……

年どしに年をとる。それに対して、日にち年をとらない為の努力を重ねる。これをもって“日就月将”という解釈はなりた、ぬものか。

不老長寿にも似たこの大課題に、さて、教育研修センターはどう取り組むべきか。

日就月将

所長 石谷義明

開設10年記念講演会

国際情勢をどうとらえるか

朝日新聞論説主幹 岸田純之助氏

7月5日、当研修センターでは10周年を記念して講演会を開催した。講師が倉吉市出身ということもあって、参加者は県下の小中高の教育関係者250名により盛會裡に終了した。

講師は、国際問題に明るく、この日も「世界の0.3%の国土で世界の総生産の11%に当る経済活動をしている日本人の生活は、世界の国々に大きく依存している。それがどうかかわっているのかを考える習慣を身につけることが大切」と強調され、IBMスパイ事件や、日韓経済援助問題など最近の時事問題を織り交ぜながら国際情勢のとらえ方を話された。

なかでも、日本と深いかわりをもっている西側先進諸国間では、それぞれの利害が衝突し、いろいろな摩擦を生じている。しかしこれ等の問題解決にあたっては、各国家間の主張の相違、考え方の違いをすり合せながら、相手国を理解し理解し合い、対等な友好関係が保たれる状態に努力していく必要がある。

東側諸国との関係、なかでもソ連の脅威に対処するにはどうすればよいか。人的交流、貿易拡大など多角

的にその関係を深めるべきで、軍事力を封じ込める政策は逆効果となることに気付くべきである。

また世界の人口の約半数が生活している発展途上国への援助は、早い成果が望めないにしても、人類の歴史の中での大国の責任とでもいうような観点で、応分の協力・援助することが世界の安定的発展のために先進国に義務づけられている。

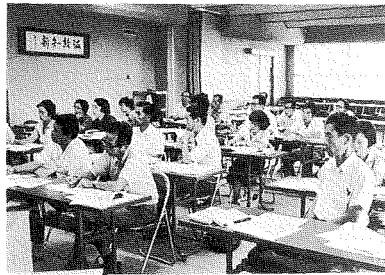
特に世界に対する相互依存関係が最も密接であることを必要としている日本は、開発援助を増大し、その発展にもっと大きな関心をもつ責任がある。等々日本の課題をわかりやすく説かれた。

そして、「人類が直面している一番大きな脅威は、特定な国の脅威ではなくて、核兵器を含む軍拡競争を続けていることであり、それをなくする知恵を出すのが最大の課題である。」と締めくくり、出席者の共感を呼んだ。



鳥取県教育研修センターが、鳥取市湖山町にできてから10年になります(昭和48年4月1日、設置条例施行)。前身の教育研究所のできたのが、昭和25年4月ですから、23年後に教育研修センターとして、新しく生まれかわったことになります。

10年間、当所に勤務した者の1人として、昭和48年当時を回想し、感慨深いものがあります。県立鳥取農高の跡地に、三階建てのどっしりとした研修の殿堂ができあがり(現在の本館)、27名の者が新しく辞令を受け勤務することになりました。当時は、入る道もよくわからず、建物の周囲の整地もできていませんでした。



第一研修室における研修風景(昭和50年)

教職員研修のセンターとして10年を歩む

最初の仕事は、県立鳥取図書館内にあった研究所の備品、図書等を運搬することでした。古い机や椅子、戸棚を

並べ、新しい表札を掲げ、清掃、整備に精を出したものです。6月18日、竣工式が挙行政され、早速所員は研修講座の開講にとりかかり、連日フル回転

の忙しさでした。年度内に、98講座(延250日、実人数2,490名、延5,394名)を実施しました。今年度の当初計画が、100講座、延314日、実人数1,518名、延4,228名ですから、初年度としては、よく気ばったものです。

研修センター第1年次の所員27名は、県教委機関から11名、学校関係から13名、新任3名という混成旅団?でした。しかし、中尾太郎所長を中心に集まったメンバーは、総力をあげて事業を計画し、その円滑な推進を図りました。備品の購入、研修講座の将来展望等、練りに練り討議を重ねたものです。

昭和50年度より情報処理教育課が設けられ、今年3月特殊教育棟が竣工するなど、文字どおり教職員研修のセンターとして、年々充実、発展してきております。56年度末までの9年間に、915講座(延43,800名)を実施、紀要発行11、図書購入3,350冊、資料収集5,609冊、関係所員は96名を数えるに至っています。

(研修主事 米沢守雄)

特殊教育センターには教育相談事業があり、幼児から高校生までの精神・身体・行動・性格等に問題を持つ子どもを教育的視点から助言や援助をする。

それには、発達心理学・行動心理学・臨床心理学的理論や手法によって問題に対処することが必要になる。それらの問題解決のためには先例の蓄積もあり、そこを踏まえた上で実証的にあたっていかねばならない。

ところが、ここに教育相談の事業でありながら、その本来的方法では対処しきれない領域がある。

自閉症（情緒障害）児の水泳指導がそれである。自閉症では、原因や定義が未ださまざまに論ぜられている段階であるが、それを水泳によって情緒的障害の除去や状態の改善を図ろうというものである。

自閉症（情緒障害）の傾向が一般に次のような状況、すなわち、「ことばが無かったり、あっても対話として機能しないし、身振りによる対話もほとんどできなくて、人とかかわることができないとか、それをのぞまない。」「人の気持ちを推しはかるとか、情緒的に共感するということができないために、周囲の状況に関係なく、自分は自分で勝手である。」「知能構造の不均衡のために出てくる行動が普通のものの行動のようすよりもどこかなり片寄っている。」とされ

るとき、水泳が有効な手段であるとされる論拠は今のところ確立されていないし、結果が説得力を持つほどに効果をあげ得るかどうかは、未だ疑問が残るところである。

さいわいに、子どもたちは現に学校教育の中において、相対的には上記の傾向よりかなり軽い子どもたちのものである。

いま、自閉症児の教育は、ものごとを理解し、言語化する機能に障害があるので、たとえば、真似る、学ぶというような学習は自らはできないとされ、ひとつ

ひとつのことを確実に教えこむことの必要がいられている。こうなると、この子どもたちにとって水泳はやはり手段ではなくて、学習事項としての一つの目標であり、内容的に自ら限界があるように思

える。

したがって、この水泳をなおかつ、たとえば、発声、発語、意志の疎通を促がすためのことばの指導等の手段の一つとして位置づけるとなると容易ではない。しかし、何はともあれ、泳ぎ方、泳ぐ力の両面ではかなりの進歩をみせており、うれしいとき、恐ろしいとき、嫌いなとき等の場面場面でみせる表情は豊かになっているようである。

相談室の窓から

—自閉症(情緒障害)児の水泳教室—

総合講座「生徒指導」を推進

本年度、生徒指導の講座を充実強化するため、「生徒指導総合講座」14講座を計画した。当面する生徒指導の課題に即応し、全校体制のもとに全教員がそれぞれ役割に応じて、総合的、実践的な指導を推進しようと意図したものである。

8月末、すでに13講座を実施し、現在、教育現場のニーズに応えるべく、来年度の講座を企画中である。

実施の状況を見ると、当初計画の13講座245人に対して、96.3%の受講率となる。

受講者の実施後の所見によると、よかった点として、具体的な問題の例示があり、ゆっくりとした日程、演習を多くとり入れ、面接の技法や児童・生徒理解のための問題行動等の討議は役立つ。要望として、研究者と実践家、管理職と教諭、学年主任と学級担任等の組み合わせ研修の企画、問題点の羅列に終わらず、提案から一歩進め指針まで欲しい、小・中・高の連携をさらに密にした研修を進めること等。

最後に、一受講者の声「生徒一人ひとりが、学校生活の中で充実感を持ち、自分は生きているんだと自覚できるよう教育環境（物心両面の）を整えていくことが、私たちに課せられた責務だと痛感した」を掲げておく。
(研修講座専門委員会)

昭和57年度

高等学校入学者選抜学力検査成績の概要

昭和57年度高等学校入学者選抜学力検査成績の概要をまとめて発行した。内容については昨年とほぼ同じであるが、各高等学校からいただく成績資料を受検者個人の素点表とし、それらを情報処理教育課のコンピュータで迅速に処理し、一部資料は56年末には各高等学校へ還元し活用いただいている。

成績の概要では5教科総得点の平均は149.5点で、教科別では、国語科(25.8点)、社会科(32.3点)、数学科(25.5点)、理科(33.5点)、英語科(32.6点)〔内は平均点〕で、昨年より8.5点平均点が上昇しているが、国語、数学の平均点が昨年同様や、低い傾向が見られる。昨年と同様に基礎的な知識、技能については中学校での指導がゆきわたり、生徒も教科書の内容を中心に学習をしている。しかし一方文章を文脈を追って正確に読み作者の意図をくみとる(国語)、二つの事象を資料の中から関連的にとらえて判断する(社会)、事象を数学的にとらえ、効率よく処理していく(数学)などの面に弱さがみられる。解答分析を中心に生徒の理解、技能、態度の欠けたところを読みとっていただき、今後の指導に活用していただくことを念願している。

研究調査事業の概要

昭和57年度に、教育研修センターが指導課及び現場の先生の協力を得て、共同研究として進める研究調査は、下記の通りである。

A. 教材開発及び指導法の研究に関するもの

- 天神川流域の教材開発と指導法の改善
(鳥取県野外学習指導テキストとして、今年度中に発刊し、各学校及び希望者に配布予定。)
- 弓ヶ浜半島周辺の教材開発と指導法の改善
(伝説、歴史、産業、植物、地質、水質、造形的素材についての基礎調査。)
- 小学校中学年理科教材・教具の開発と指導法の改善
- 中学校理科における基本実験の開発
- 新指導要領に基づく学校行事の研究
- 学校教育相談に関する研究調査
(心身症及び家出に関する児童生徒の意識調査とその予防についての指導事例研究。)
- 特殊教育に関する調査研究
(心身障害児の実態調査及び指導に関する意識調査。)
- 情報処理教育の教材研究開発

B. 学力検査の分析に関するもの

- 小学校算数学力診断調査とその分析研究
- 高校入学者選抜学力検査成績の分析研究

図書室移動書架完成

年来の懸案であった移動書架が設置されました。

6連9列で、1列の間口560cm、奥行50cm、高さ220cmで6連になり、各連単独移動ができます。

移動は自動車のワッパーハンドル様のものを回すと1連約1トン近くの図書が指先きで軽く動く仕組みです。

現在、24,000冊の図書及び教育資料と小・中・高校教科書約2,800冊を蔵しておりますが、年々700部の増冊で、これらの保管書架の不足に苦慮していたところです。

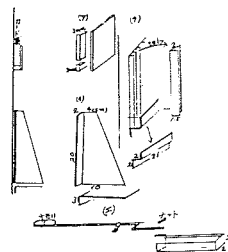
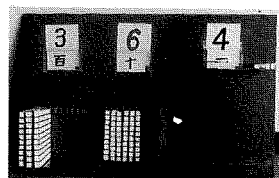
この移動書架の完成により従来の約2倍程度が収容可能となり、閲覧も便利になりましたが、構造的に多数の者が同時に利用できないのは致し方ないようです。

研修講座等で来所の折は、ご利用のよい機会だと思えます。お立ち寄り下さい。



教具紹介

1,000までの数説明器



(1) 部品と各部の説明

- (ア) アクリル板(2mm厚)下のフラット、ロング、単位の各個数に応じた数のカード(厚紙)をさし込む。
 (イ) フラットが10枚の棚アクリル。
 (ウ) ロング入れのみぞ、下じきをたんざく状に切り直角にまげる。
 (エ) さとう10個のると重力で回転(くり上がり)する。
 (オ) ロング、フラットは発泡スチロールを切り線を入れる。

(2) 操作上の注意

子どもがユニット、ロング、フラットを数えたり、カード入れにカードを配置した後教師が板書。(エ)の箱のさとうを10未満にしたとき、はね上がらないとき手で軽くはねあげること。ロング10本の箱づめのときくり上がりをうまく説明する。

(研修主事 田村英富)

昭和57年度 長期研修生

(57.4.1~58.3.31)

算 数 科	東郷町桜小学校	小泉 昭雄
音 楽 科	鳥取市高草中学校	清末 宣春
国 語 科	鳥取市久松小学校	西田 淳二
理 科	鳥取市東中学校	大黒 啓之
家 庭 科	鳥取市稲葉山小学校	林田志津子
技術・家庭科	鳥取市湖東中学校	中川 俊隆
教育相談	若桜町若桜中学校	山本 毅
生徒指導	鳥取市湖東中学校	近藤 立夫
特殊教育	鳥取市湖山小学校	茂嶋 範直
工業科(機械)	鳥取西工業高等学校	東岸 克司

寄贈資料のお願い

教育研修センターでは、教育資料を積極的に集めるよう努めております。学校誌、沿革誌、記念誌、広報誌、学校要覧、また図書館資料目録、調査研究資料など刊行の節は、是非御寄贈して下さいますようお願いいたします。

発行年月日	昭和57年 9月18日
編集発行	鳥取県教育研修センター 鳥取市湖山町北5丁目201 電話(0857)28-2321 〒680



No. 27
1989.6.1

機構改革特集

題字……所長 清末 忠人



臨時教育審議会及び教育職員養成審議会の答申で、教員の資質向上を図るため「初任者研修の制度化」が提言され、それを受けて平成元年度から小学校の初任者研修が本格実施されることになり、経験年数に応じた体系的な研修を今まで以上に重視することが必要となった。

当研修センターでも、こうした時代的背景をふまえて、一昨年より研修の体系化と講座の見なおしに鋭意努力を払い、現職研修の効率を高める方途を講じて来たが、昨年に至って、本年度の小学校初任者研修の本格実施を機に、従来、県教委事務局の担当課が中心となっていた初任者研修、新規採用教員研修、教職経験者研修の大部分が当センターに移管される旨の内示を受けた。

これによって、新たにセンターの今後あるべき姿を追究し、連日激しい論議が交わされた。

特に、新規事業の導入による講座数の調整で、従来当センターの特色と考えられていた理科教育センター的一面や教科研修を中心にした講座が大幅に後退することについては、現在まで、それを自分の使命として尽して来た所員にとっては、時代の要求、教育改革といった言葉やその重要性は痛い程わかっている、内心割り切れないこともあり、各県の教育センターや研究所からの関連資料の収集や分析はもとより、県教育長をはじめ関係各課との会合も数次に及んだ。

こうして煮詰めていく中で、従来の考え方から完全に脱皮して、新たな発想で出発することの必

要性に目ざめ、それに対応する組織の改革に着手することにした。

まず、初任者研修・教職経験者研修等を体系的に実施するには、従来の教科による課の構成よりも、校種の特徴を考慮した課の構成が望ましいという結論に立って、研修第一課、研修第二課、研修第三課を新たに編成変えて、

①初等教育課→全教科担任制の小学校担当課として研修、研究調査・教育資料の整備、提供、保存に当る。

②中等教育課→教科担任制の中学・高校担当課として、研修、研究調査・教育資料の整備、提供、保存に当る。

③教育相談課→教育相談・心身障害児教育(盲、ろう、養護学校)担当課として、
○児童・生徒の学習、行動等についての教育相談。
○生徒指導についての研修及び研究調査。
○心身障害児に対する教育についての研修及び研究調査。
○生徒指導及び心身障害児に関する資料の整備と提供に当る。

の三課を新設し、これに従前の情報処理教育課を情報教育課と改称して従前の情報教育に関する研修、研究調査と生徒実習に新たに情報資料の整備、提供を加えて充実を図ることとした。

今後、さらに学校現場からの声や受講者からの声を反映させ、それぞれの課にふさわしい研修、講座を構成し飛翔へのステップを固めたいと願っている。

脱皮そして飛翔

所長 清末 忠人

初等教育課

現職教育の体系化の項目に、教員は専門職として、職責の重大性を自覚し、不断の研究に努めることが大切であると述べられています。

このように、教師の資質向上が問題にされている今日、研修面では、国語、社会、算数、理科、音楽、生活科などの教科と、学校・学級経営、道徳、特別活動、同和教育などの領域に関する研修を8名のスタッフで担当しています。

これらの研修は、新学習指導要領の趣旨を生かしながら、教育現場の研修課題に応える内容を十分検討し、理論研修のみならず、演習、実技等を組み入れるなど工夫をこらしています。

研究面では、「主体的な活動を促す指導に関する研究」～直接体験を重視した指導～など、議員一人ひとりが研究テーマを設定し、研究を進めています。

また、図書室には、各教科、領域に関する教育図書、教育資料を整えています。さらに、本年度から、これらの教育図書をデータベース化し、利用目的に応じて検索できるように研究を進めています。

いつでも自由に閲覧したり、必要に応じて貸出して貸出し(二週間程度)も可能ですので、校内研究、個人研究の参考資料として、気軽にご利用ください。

- 依藤紀代彦(課長・総括、学校経営)
- 八幡 建一(音楽科、同和教育)
- 坂本美穂子(図画工作科、美術科、学級経営～下学年)
- 中嶋 俊二(特別活動、同和教育)
- 久葉 俊二(社会科、道徳、視聴覚教育)
- 盛本 裕子(国語科、生活科、図書主管)
- 木村 正人(理科、学級経営～上学年)
- 吉田 和宏(算数科、理科)

中等教育課

中学校・高等学校の教科及び教科外に関する研修と調査研究を8名の職員で担当しています。

研修では、中学校17、高等学校7の合計24講座の課題研修と専門研修の開設を予定しています。この中には「情報基礎(技術・家庭科)」「道徳教育」のように、新教育課程に対応して新設した講座もあります。研修の企画・運営に当たっては教育の今日的課題や将来的課題の把握に努め、理論、演習、研究協議、教材・教具の製作、実験・観察等内容の多様化を図り効果的な研修になるよう工夫をしております。

調査研究では、初等教育課と共同で現場の先生方の協力をいただき、鳥取県野外学習指導テキスト「第9集・第10集」の刊行に向けて、大山周辺、千代川下流域の調査研究を進めています。さらに幾つかのテーマを掲げて取り組んでいます。「被服領域における個に応じる問題解決の指導」「情報基礎領域の指導に関する調査研究(技術系列)」「地域教材の開発(理科)」「主体的な活動を促す指導法の研究(社会・英語、高等学校HR)」等がそれぞれです。

また、高速ダビング装置(音声)、顕微鏡写真撮影装置、顕微鏡VTR撮影装置、分析機器等の設備や当センターが開発した教材・教具もありません。ご利用ください。

- 国本 道仁(課長・総括、学校経営)
- 加藤 隆彦(国語、ホームルーム経営)
- 内藤 盾機(理科、地/ 材開発)
- 哲雄(英語、学年経営)
- 中本 豊(数学、学級経営)
- 裕明(技術・家庭科、特別活動)
- 森田 俊宏(社会、同和教育)
- 宮川真利子(技術・家庭科、道徳教育)

情報教育課

小・中・高等学校一貫した情報に関する教育(含情報処理教育)を推進するため、情報教育課に課名を変更しました。主要な事業は教職員研修、研究調査及び生徒実習等です。

教職員研修では、従来から高等学校5講座を設けています。新学習指導要領が告示され、特にコンピュータを利用した学習指導が重視されることになりました。そこで、初心者を対象に、小学校1講座(84名)中学校1講座(40名)を設けるほか、コンピュータ担当者・指導者養成のため小・中学校(合同)1講座(30名)を新たに設けました。また、初任者研修・試行の中でもパソコン利用の研修も行います。

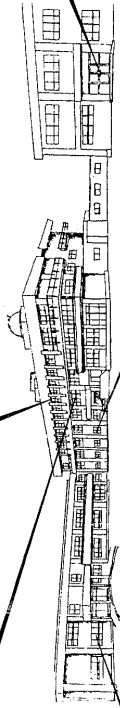
研究調査の「C.A.I教材に関する研究」では、本年度は小学校(算数)3名、中学校(理科)3名に、新たに高等学校(理科)3名を加え計9名の研究委員がC.A.I教材を作成しています。「教育資料データベースに関する研究」では、委員会を発足し、国立教育研究所のデータベース利用及び当研修センターの教育資料データベースの構築について研究を進めています。

生徒実習(高等学校)では、プログラム言語学習や統合ソフト等を利用した学習を行っています。

さらに、本年度は、大型コンピュータシステムの更新を検討しています。なお、学校のコンピュータ利用に関する相談・支援等に応えるため、要請があれば学校へ出かけることになっています。

以上、教育の情報化に対応するため、積極的に取り組んでいますのでご利用ください。

- 平尾 義雄(課長・総括)
- 岩崎 学(高等学校)
- 富本 哲郎(高等学校)
- 森下 一美(小学校)
- 太田 篤(中学校)
- 前場小津枝(オペレータ)



教育相談課

“1150”この数字は、昨年度研修第三課への来所相談者の延人数です。このうち約41%は登校拒否、36%は心身障害児教育に関する相談でした。

児童教育に追いついていく子供達の教育上の諸問題に対して、学校を越えて広く地域社会との連携の中で、その解決の一翼を担うため、本年度より研修第三課を改称して、わかりやすく親し、もった“教育相談課”として機構改革の上、スタートしました。

研修センターの門を入って左手、そこにグレイとネービーブルーの落ち着いた建物即ち心身障害児教育棟があります。自動ドアの玄関に入って直ぐ左側の研究室が教育相談課です。ここでは、教育相談・生徒指導・心身障害児教育等の研修講座はもとより、子供達についての教育上の“悩み”や“問題”——「学校に行かない」「いじめられている」「万引・喫煙等の問題行動がある」「連絡が決まらない」「目や耳が不自由である」「言葉が遅れてハッキリしない」等々——について、静かで落ち着いた相談室、障害児教育に關係した身体機能検査室、言語機能検査室・心理検査室等の整った施設・設備のもとで、社一点を含む8名のスタッフ及び、秘密厳守に立って親切にねいねいに相談に応じています。

また幼稚園や各学校の先生方も各々クラスの子供達の指導の一助として、気軽にご相談においでください。

- 奥田 省一(課長・総括)
- 西垣 幸信(教育相談、生徒指導)
- 米田 克彦(教育相談、生徒指導)
- 松嶋 守城(心身障害児教育、教育相談)
- 山内 武彦(教育相談、生徒指導)
- 中林 公子(心身障害児教育、教育相談)
- 奥村 一成(教育相談、生徒指導)
- 白田 由人(教育相談、生徒指導)

庶務課

この4月に行われた機構改革で、他の事業課はすべて課の名称が変更されましたが、庶務課だけは旧態依然として元の名称のままであり、また、他の課は全員教員出身者が占めている中で、庶務課の職員6人は、事務・技術畑の出身者です。

庶務課の業務は、庁舎等施設・設備の管理、予算の編成執行、所内外の連絡調整など多岐にわたっています。また、何となくとも一番の仕事は、所長の統轄のもとに、各課の業務がバラバラに多岐にわたっているようにするために、如何にして職員の働き易い環境や職場をととのえ、また、職員の間で公平感を無くするに努めようと思っておりますが、言うは易くして、行うは至難の技であります。

最近ではOA化が進み、何処も最新の事務機器が導入されていますが、当研修センターでも限られた予算をやりくりして、このたび漸くFAXを導入しましたのでご利用ください。

庶務課の事務室は、中央棟の玄関を入ってすぐ左側に位置しており、下記の6名の職員が勤務していますので、お気軽にお立ち寄りください。

- 南部 哲雄(課長・総括、所内外の連絡調整)
- 坪内 弘幸(財産管理、予算編成)
- 石河 利憲(電気、電話設備管理、施設環境衛生)
- 細田 純子(所員の福利厚生、給料、文書の取発)
- 網川 昭夫(予算執行・決算、研修旅費)
- 森本 賢一(空調設備保全管理、公用車運転)

交流のひろば

第 1 号

昭和 59 年 7 月

鳥取県教育研修センター

題字 澤田 所長

交流のひろば、発行にあたって

暑い日が続きます。夏期休業に入っても、何かと多忙のことでしょう。

このたび、県内の先生方を対象に肩のこらない、気楽な研修の交流を図るため、「交流のひろば」を発行して各学校と、教育研修センターの一層の親密を深めたいと考え、従来の「所報」とは別に、第 1 号をお届けすることにいたしました。

今年度、教育研修センターでは

1. センターは県下の学校の研修交流の広場と共に、そのかなめになっていくように努める。
2. 研修の成果が、各学校に直結していくよう、積極的に努力する。
3. 所員一人一人が課題意識を高め、研修内容の充実に努める。

といった研修への取り組みを強化していこうと考えております。

具体策として、各課のロビーに展示コーナーを設けたり、「本県学校教育推進のための基本的課題は何か」というテーマで全所員 K J 法を使っての研修を実施したりしております。

この「交流のひろば」もその一つです。研修交流の親密化を図るため、各学校からの情報や御意見を積極的に提供していただき、この紙面を充実していただきますようお願いいたします。

「学校教育を考える」アンケートより

— 関心は生徒指導に —

先頃、受講の先生方（小中の学級担任、教務主任、教頭計 116 名）に、学校教育の課題を考える調査（10 項目中 3 項目選択方式）を実施しました。

先生方の指摘された課題、問題点は次の順位を示しました。

- 学級担任 — ①生徒指導②教育課程③教育制度④教育環境⑤研修・・・
- 教務主任 — ①生徒指導②教育課程③研修④人的条件⑤教育制度・・・
- 教 頭 — ①生徒指導②人的条件③教育課程④経営方針⑤研修・・・

この結果から職種の別なく、一番関心が高いのが生徒指導であることがわかります。中でも、子どもと直接かわりをもつ学級担任の関心度が高い率を示していました。

文部省は、中・高の校内暴力は減ったと発表していますが、反面県内では増加の傾向であると発表されています。

指導体制の組織づくり・児童生徒理解に立脚した学級経営・教育相談活動の充実など生徒指導の具体的な取り組みを学校経営の方針の中核におき、日々の実践に生かすことが一番の課題であることを、このアンケートも表していました。

鳥取県教育研修センター 研究調査事業の紹介

鳥取県野外学習指導者テキスト第7巻
『千代川上・中流域とその周辺』

このテキストは、千代川上・中流域に広がる野田、川原、佐治村、河原町の4町村の豊かな自然や文化など地域の特色ある素材を収集して教材化したものです。
主な内容は、
国語科……読書、伝説、昔話等
社会科……歴史、交通、産業、風景等
理科……地形、地質、動物、植物等
図工・美術科……造形素材、鑑賞等
です。ご利用いただけば幸いです。

鳥取県野外学習指導者テキスト第8巻
『大山とその周辺(松尾谷)』

大山とその周辺は自然(地形・地質・動植物・水害等)や、そこに住む人々の生活(歴史・民俗等)に特徴的な地域性があり、豊かな教材を育する地域です。県内のみならず県外からもその教材力が期待されています。
もちろん、地元の方々の精力的な実地調査により教材開発が進められ、初年度、野外学習指導者テキスト第8巻『大山とその周辺(松尾谷)』(鳥取県立公園地域と周辺地域の調査)を刊行する運びとなっています。また、(地域誌)も始まります。

小学校における教育相談の進め方(1)
— 生徒指導の理解と指導 —

この資料は、小学校の当番する教育相談上の諸問題の中で、生徒指導をめぐる問題をとり上げ、実地調査の結果、生徒指導の理解と指導のあり方及び具体的な指導事例について検討を重ね、その結果をまとめたものです。
生徒指導の過程や行動、段階に応じた指導について具体的に述べていますので、校内研修や協働行動の早期発見、早期対応などに役立てていただき、各学校における教育相談の一層の発展と充実のために活用ください。

新コンピュータシステムの操作法の
研究と教材開発

教員研修や生徒実習に実践に役立つよう、端末機、周辺機器の操作に添ってペンソフト、ワープロやCAD等パソコンの操作に特化した教材として『FACOM-M360Rコンピュータシステム操作手順書』を作成しました。
また、生徒が興味をもちながらフォントなどはペンソフトによるプログラミング学習が行えるよう、各教科(国語、算数、水産)に関係のある題材を選び教材作成を行いました。

指導者の表現力を高める指導法の研究(1)
— 話すことを中心として —

児童教育の中で言語にかかわる指導が、大きな役割をもちます。話し言葉の少ない子ども、話し言葉に乏しい子ども等の指導は指導者であるべきかについて研究してきました。子どもの問題に対する仮説を立て、それに基いた指導を組み重ねていく方法をとりました。事例3実践の指導を生かせるよう、指導内容や方法、その時の子どもの変化を詳細に収録しています。(5.634頁予定)

あなたも自主研修を

自分が課題とするテーマについて、自主的に取り組む短期研修をあなたもやってみませんか。詳しくは、研修実施要領編ををご覧ください。

学年	研修者名	研修内容	研修テーマ
小1	田村 幸子	読取活動	読取活動の充実(VTR活用)
小2	山本 直樹	算数	算数科における算数問題の解決
小3	小川 隆子	国語	読取活動の充実(VTR活用)
小4	石塚 和子	算数	算数科における算数問題の解決
小5	藤田 和子	国語	読取活動の充実(VTR活用)
小6	山本 直樹	算数	算数科における算数問題の解決
小7	山本 直樹	算数	算数科における算数問題の解決
小8	山本 直樹	算数	算数科における算数問題の解決
小9	山本 直樹	算数	算数科における算数問題の解決

大山の自然と歴史

国立公園「大山」は、雄大な自然とその環境の中で育まれた歴史と文化があり、学校現場においても野外学習・体験学習の場として利用されている。そこで、この大山について、教職員の見聞を深めることによって、学習指導の一助となるよう本誌を開設した。
研修内容は、現地の探訪を主体にし、校種や教科をこえ、幅広く研修していただき、自然、歴史、民俗等の内容を折り返し、「大山」をよりグローバルに捉えられるようなものにした。
しかも、解説講座は、歴史・民俗＝島中弘(境港市市民館長)、地質＝道徳講師(前八幡小教頭)、動植物＝川上明雄(前南郷中教頭)、清潔志人(鳥取県研修センター所長)等というそれぞれの分野で造詣の深い先生方にお話しし、現地で具体的な解説をしていただいた。

1泊2日を朝食共し、自然の中で異国のものを体験し、自然を背景にした歴史や文化を感じながらの研修は、改めて大山を見直さなければならぬ。意義深いものであった好評であった。是非、また参加したいので来年も開催してほしい。案内を徹底したらもっと参加希望が増えるのでは、と嬉しい激励をうけながら散会した。



ご案内

「やる気を育てる」
本年度第2回の教職教育講座を開催します。講師は、伏見工業高校の山口良治先生です。先生は、専任として昭和55年度第60回全国高校ラグビー大会で伏見工業高を優勝に導いた「熱血先生」です。また、全日本の代表選手としても活躍されました。
先生は、福井県出身で、日本体育大学を卒業後、岐阜県の教員、京都市役所を経て、昭和50年から伏見工業高に勤務され、ラグビー部監督となられました。「やる気力」をモチベーションに生徒のやる気を育てるための教育は、学生ドラッグ(「スガールワーク」)のモデルとしても有名です。さっとみなさんに関心を持ってもらえると思います。
多くの方の参加をお待ちしています。
期日 平成2年1月31日(日)
会場 県民ふれあい会館(鳥取県庁2階)
講師 伏見工業高教員 ラグビー部監督 山口 良治 先生

当教育研修センターでは、教育資料専門委員会を中心に、教育資料の利用向上を図るため、データベース化を研究しています。

開発中のデータベースは、平成元年度からの受け入れ資料を対象として、平成2年度から利用開始できるように準備を進めています。
【教育資料データベースの概要】
【データ件数】約12,000件/年
【利用ソフト】dBASE III PLUS
【検索項目】教職、分野内容、研究対象、発行年月、都道府県、索引語他
【検索方法】操作画面、検索項目をメニューで選択
【図データベースの概要】
【データ件数】約300件/年
【検索項目】国名、著者、分野内容他
【利用ソフト】、【検索方法】は前記に同じ

平成4年度より「全面実施」初任者研修

本年度の初任者研修は、小・中・高等学校が本格実施、盲・聾・養護学校が従って4月より実施しています。平成4年度には、幼稚園を除くすべての学校の初任者を対象として実施となります。校内・校外における研修、宿泊研修、洋上研修等の内容で研修を進めています。



7/5 ダミー相手に真剣に思を吹き込む初任者

「体験的研修」(7月5日)

小学校110名、盲・聾・養護学校29名を対象とし、7月5日県内3地区に分かれ、面影山、山守小、百箇寺小を会場として研修を実施しました。「学校教育と健康・安全」というテーマで講義を受けた後、トランプに登場する動物の図鑑、水産に関する水産知識の実践研修を行いました。水産指導の時期であり、学校現場に即した内容の研修です。動物図鑑は一人ずつダミー(人形)を使って人工呼吸を体験し、水産指導では低学年の水慣れの段階から泳法までの基本を研修しました。子どもの安全を守る大切な内容ですので、学校現場でいっそう研修を深めて欲しいものです。

「企業に学ぶ」(8月7日)

「企業に学ぶ」という項目で、高校初任者研修が東部・中部・西部に別れて実施されました。東部は、対象者17名で、新築になった鳥取銀行と新日本新聞社を会場に、主に「人材育成」の観点から話をいただいた。最新の設備を駆使した新聞の製作工程を見学させていただきました。

先生方の感想には、「常に本質となるものは変化せず。表裏の裏面に左右されず、最後まで信念を貫くことが肝心である」とか、「新聞記事の取り上げ方で、視点をどこに置くかで表現が全く違うものになる」とあり、学校教育と関連づけて述べられていました。先生方に、確かな判断力に基づく社会性を身につけていただきたいと思います。



7/24 船上山から各川へ

「宿泊研修(1)」(7月24日～26日)

宿泊研修の意義を生かすために、県内三地区の「自然の家」を利用して、各地域の特色を生かした体験的研修を中心に実施しました。(各都地区の例)

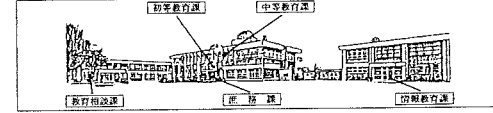
- 場所 県立船上山少年自然の家
- 対象者 38名
- 住居 2時間を要した「船上山登山」、自然の川や滝を利用した「谷川三平」は、かなりハードでしたが、面に植物や地蔵に触れることができ、豊かな自然を利用した有意義な研修でした。また、「森ごう炊さん」「キャンプドール」で「討論会」など、初任者同士の交流や協力を深め、楽しく研修することができました。
- その他の研修内容「集団宿泊の指導と実践(子ども観察等)」「青少年の健全育成、P.T.A活動の意義(講義と演習)」「集団宿泊訓練の意義(児童生徒を引率した場合の立案及び発表)」

3日間を通して全対象者が29名楽しく研修することができました。

教育研修センター 開設20年のあゆみ

教育研修センターが現在の地に開設されて、はや20年を迎えようとしています。かえりみますと、昭和25年に前身の鳥取県教育研究所が発足したものの、変遷が続き、その間に5回も移転するなど幾多の苦難を経て、昭和48年4月に現在地にセンター施設が新築され、名称も鳥取県教育研修センターと改称して再出発しました。当センターも他県の例にもれず、当時の理科センターとしての機能を入ることが求められ、これに対応する施設・設備も整備されました。昭和50年4月に産業教育の振興を図るため、情報処理教育棟が増設され、昭和57年4月には心身障害をもつ子供たちの教育に特化するための特殊教育棟が完成するなど、逐次、施設の整備がな

されました。平成元年4月には、教育相談部門・情報教育部門の拡充と初任者研修の拡充に備えて、機械改革を行い名実ともに総合教育センターとしての体制が整いました。当センターが担当する業務も、教職員の研修、48年4月に現在地にセンター施設が新築され、昭和48年4月に現在地にセンター施設が新築され、名称も鳥取県教育研修センターと改称して再出発しました。当センターも他県の例にもれず、当時の理科センターとしての機能を入ることが求められ、これに対応する施設・設備も整備されました。昭和50年4月に産業教育の振興を図るため、情報処理教育棟が増設され、昭和57年4月には心身障害をもつ子供たちの教育に特化するための特殊教育棟が完成するなど、逐次、施設の整備がな



どうぞよろしく 所員一覧

- 所長 佐々木 俊夫
- 事務課
 - 長谷川尚美(課長)
 - 土田 正昭(総務・会計)
 - 石川 利雄(総務)
 - 根本 賢一(総務)
 - 細田 純子(総務・会計)
 - 尾田 博志(総務・会計)
 - 藤井 恵子(オペレーター)
 - 教育相談課
 - 長谷川尚美(課長)
 - 松本 守城(心身障害児教育)
 - 野本 英延(教育相談)
 - 窪田 礼子(心身障害児教育)
 - 細田 誠子(教育相談)
 - 久保 二(通訳)
 - 山本 裕子(国語・国際理解)
 - 高野 幸次(生活・労働理解)
 - 窪田 和子(国語・家庭)
 - 山下 公明(理科)
 - 山崎 佳代(音楽)
 - 三浦 健司(社会)
 - 大西 泰博(国語・特別活動)
 - 情報教育課
 - 高木 昭昭(課長)
 - 平本 功男(普通・商業・農業)
 - 安田 敏正(工業・情報・商業)
 - 渡辺 二(情報教育(中学校))
 - 木村 秀昭(情報教育(小学校))
 - 中等教育課
 - 伊藤 朝雄(課長)
 - 大塚 智昭(国語)
 - 井上 洋一(数学・道徳)
 - 中本 泰(英語・数学)
 - 吉野 祐洋(理科・保健)
 - 末田 貞一(理科)
 - 赤崎 裕生(社会)
 - 山田 明子(技術・家庭・保健)

あ と が き

創立20周年を迎えるにあたって記念誌を刊行することになり、各課1名ずつによる編集委員会を昨年の7月にスタートさせました。

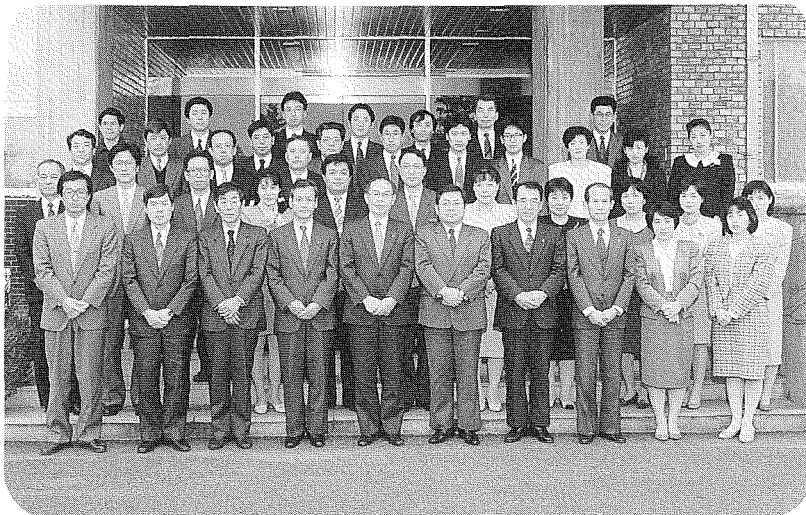
先輩諸氏の手により立派な創立10年誌が既にあり、この記録をもとにそれ以降の10年分を盛り込んで書き改めるという作業を、各課、委員会等で進めてきました。資料の収集に際して、所員の在籍が比較的短年数で交替していて不明な部分も多く、10年間という歳月の重みを実感させられたところです。

今回は、歴代所長全員と諸先輩何名かの回想文を掲載することにしましたところ、皆様が多忙中にも関わらず快く原稿を書いてくださいました。それぞれの方の思いの込められた原稿を受けとるたびに、その時その時の多くの方々のご苦勞がしのばれ頭のさがる思いでいっぱいです。

この記念誌の刊行にあたり、皆様よりいただいたご協力に対して、編集委員一同心からお礼を申し上げますとともに、今後一層当教育研修センターへのご指導・ご支援を賜われますようお願いいたします。

平成5年3月

編集委員長 松 嶋 守 城
委 員 平 木 功 男
久 土 正 昭
吉 久 葉 俊 二
岡 岡 靖 洋



平成4年度所員（平成5年3月26日撮）

創立二十年誌

平成5年3月25日 印刷
平成5年3月31日 発行

発行所 鳥取県教育研修センター
鳥取市湖山町北5丁目201番地
電話 (0857)28-2321

発行者 佐々木 俊 夫
印刷所 総合印刷出版株式会社
電話 (0857)23-0031
